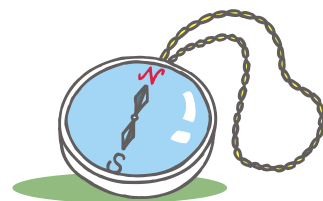


# 羅 針 盤

第 17 号

令和2年（2020年）8月31日（月）



## ◆ 研鑽を積み重ね、探求心を忘れない！

将棋の藤井聡太棋聖が、王位戦七番勝負に見事なまでの4連勝で木村一基王位から王位を奪取し、史上最年少での二冠（棋聖と王位）保持者となり、また、最年少での八段昇格も樹立しました。これまで数々の最年少記録を更新してきた彼の功績に対して、羽生善治九段からは「空前絶後の大記録」という高評価を得て、更なる高みを目指してほしいといった声も多く聞かれるところです。以前に羅針盤でもお伝えしたことがあります。が、コロナ禍で自粛生活を余儀なくされていた3月から6月半ばまでの間に、藤井聡太八段は「今だからこそできることに目を向けて、集中力を高めること、そして、何よりも日々の研鑽を積み重ねて過ごすこと」を生活の中心に位置づけて過ごしていました。万有引力の法則を発見したことで有名な自然科学（物理・数学）史上稀にみる天才であるアイザック・ニュートンも、世界の各地で伝染病であるペストが大流行したときに、大学が閉鎖されることになって故郷に戻って過ごした2年間にも及ぶ自粛生活で、ニュートンの三大業績と呼ばれる「万有引力の法則と運動の法則の発見」、「微分積分学の基礎となる考え方の開発」と「プリズムでの分光実験をもととした光学の中で提唱されている粒子論」を、後にニュートン自身が「創造的休暇」と呼ぶこととなる休業期間に発見したり考えだしたりしたそうです。

「できないことだらけ」の今の生活を、如何にして有意義な生活に変えて過ごしていくことができるのか。私たち一人ひとりに今大きく問われている命題ではないでしょうか。生徒の皆さんには、是非とも藤井聡太棋聖のように、日々の研鑽を積み重ねていくことを怠ることなく、そして、自分自身の課題に向き合いながら探求心を忘れない気持ちを持ち続けてもらいたいと思います。



## ◆ 不安な気持ちに向き合う中で

先週の8月25日（火）に、萩生田光一（はぎうだこういち）文部科学大臣から、新型コロナウイルス感染症の不安が広がる中で、学校における教育活動と感染症対策の両立を図るために、互いの思いやりの大切さや、過度な不安の解消、差別や偏見、誹謗中傷等を決して許さないことを伝えるメッセージが発表されました。新型コロナウイルス感染症の拡大が長引く中、その不安やストレスと、どのように向き合っていけば良いのか、本当に大きな課題ではあるけれども、まずは体調を整えることを最優先としながら、十分な睡眠時間を確保すること、定期的に食事をとること、ほどよく体を動かす機会を持つことが基本といわれています。生活リズムを崩すことなく、日頃から当たり前に行っていることを当たり前に行うことで、自分に自信を持ち、「大丈夫、自分にはできる」という気持ちを持ち続けることが何よりも大切なことであり、些細な出来事は余り気に留めないようにして、受け流すのも大事なことのようです。

